

多様な価値観、アイデア、希望や課題を整理し 具体的なイメージを思い描く。実現できるかどうか

interview

井川線ならではの
景色、空気、雰囲気…
どう情報を発信するか



井川線収益向上検討チーム

内屋安弘さん（吉田町）

私は普段、技術スタッフとして大井川電力センター館内のデータ取りまとめなどの業務をしています。

今回、本町の活性化のため自分にできることは何だろうと考え、井川線収益向上検討チームに参加しました。

井川線について実態を調査するため、3回ほど現地を訪れました。沿線は景色も空気も良く、静かでのんびりした雰囲気がとても好ましく思えました。ただ「これ」という目玉になるものがない気がして、とてももったいないとも思ったんです。これは実際に現地を訪れたからこそ気が付いたことです。

知名度を上げていくためには、ここの情報を絶えず発信し、一過性にならない活動をしていく必要があります。チャレンジする気持ちを忘れず、取り組んでいきます。

interview

寸又峡を歩いたことで
良さや課題を実感
ここの魅力を広めたい



寸又峡温泉活性化検討チーム

井本宗志さん（岡山県）

私は現在、発電電機技術課という部署に勤務しています。昨年、岡山県から本町に転勤してきました。

この検討チームへの参加が決まった後、実際に寸又峡に泊まり込みで訪れました。現地は3回くらい歩いたんですが、案内看板が少なく、目的の場所がなかなか見つからないことがたびたびあって戸惑いました。外から来たお客さんも同じように感じてしまうのではないのでしょうか。

実際に温泉に入ってみて、その素晴らしさを実感しました。まずは、その良さを多くの人に知ってもらう必要があります。まだまだ他県などには認知度が低いと思いますので、インターネットを使った情報発信をしたり、ツアーを企画したりして、寸又峡温泉の良さをもっと広めていけたらと思っています。

interview

地元の元気や潤い創出
町民・行政・企業が
一体となる必要がある



本町・井川地区活性化検討チーム

藤田裕見子さん（瀬平）

大井川電力センター内で庶務などの仕事をしています。私たちは、本町の人口がどんどん減っていく中で、町の人がもっと元気になることはないかと考えました。

町内にはグラウンドゴルフが大好きで、毎日のように楽しんでいる人がたくさんいます。芝生が整備されたグラウンドもたくさんあります。このグラウンドゴルフを活用したまちづくりをしていけば、地域が元気になったり潤ったりすることにつながり、みんな前向きな気持ちになれるのではないかと考えたんです。

これからの時代、町民も行政も地元企業も、一緒に考えていく姿勢が最も大切だと思います。みんなで協力し合えば、きっとさまざまなアイデアが生まれ、町の活性化に向けた取り組みが進んでいくのではないのでしょうか。

現地踏査で何を感じたか
現地踏査を実施した結果、それぞれのチーム、それぞれのメンバーに見えてきたものがある。
「閑散として寂しき漂う商店街」気が付かなかった自然の美しさや空気のおいしさ
「ゆったり、のんびりと流れる時間」「人が乗っていない井川線の車内」「グラウンドゴルフ場で見えた笑顔と元気な声」
「初めて見た、地域の歴史を伝える古ぼけた看板」…
どれも、自分たちの足で現地を歩いたからこそ気付いたもの。いくら文献や資料をひもといても、決して知ることにはない素材ばかりだった。

「ここを生かしたら、この地域はもっと良くなる」「ここが足りないから地域が光らないのではないか」「こんな良い面がある」「反面、こんな足りない部分もある」…
メンバーたちが地域の良さや課題を肌で感じたことが、その後の企画検討に生きている。想像でしかなかった地域の現状が、具体的な形となって見えてきたからだ。
おぼろげに見えてきた課題
対象が違う3つの検討チーム。しかし、どのチームにもおぼろげながら見えてきた共通のテーマがあった。それは「交流人口の増加による本町の活性化」だった。

本町・井川地区活性化検討チームの藤田裕見子さんはこう話している。
「本町の人口がどんどん減っていく中で、私たちは町の人がもっと元気になれるよう、グラウンドゴルフを活用した交流人口の増加を検討しています。これからの時代、各分野の垣根を取り払い、町民も行政も地元企業も一緒に考えていく姿勢が必要。みんなで協力し合えば、きっとさまざまなアイデアが生まれてくると思います」。
交流人口を増やすにはどんな取り組みが必要なのか。課題解決に向けて各チームが知恵を絞り、企画を練った。必要な「何か」が見えてきた。



人もまばらな閑散期の寸又峡温泉街。ある住民に聞くと「観光客が道いっぱいにあふれ、対岸の店が見えない時代もあった」という。

「何」が必要なのか。

現地を歩くことで見えてきたもの
足りないもの、今ここにあるもの
さまざまな視点から、地域の発展可能性を探った